

福山市廃棄物減量等推進審議会議事録（抜粋）

2009年（平成21年）8月20日

10時00分～12時00分

福山市役所6階 60会議室

出席者

委員：高田委員，岡田委員，三吉委員，佐藤委員，占部委員，客本委員，福永委員，古川委員，尾方委員，福井会長，鶴崎委員，藤井副会長，開原委員

事務局：経済環境局長，環境部長，環境部次長兼環境総務課長，環境保全課長，廃棄物対策課長，環境啓発課長，福山クリーンセンター所長，南部環境センター所長，環境総務課長補佐，環境総務課庶務担当次長，廃棄物対策課廃棄物第1担当次長

議題（1）2008年度（平成20年度）ごみ排出量等について

発言者	質 疑	回 答
福井会長	2008年度は不況でかなりごみ量が減っているが，不況の影響を考えなかった場合，市役所はごみ量の変化をどのように予想されているか。	率にして5%程度減少しているが，エコでえ〜ことキャンペーンなどで市民啓発に力を入れているため，少なくとも2，3%程度は減少しているのではないかと考えている。
客本委員	生ごみ処理容器設置補助金交付実績で，2004年度から2008年度の5年間の推移があり，コンポストと加熱式でかなり差があるが，コンポストの増加とその分析。それとコンポストと加熱式の補助金の金額の差をどういう風に分析されているか。	コンポストの方が増えている理由は，他に加熱式と微生物の力を利用して分解する方法があるが，微生物の場合は難しさがある，加熱式の場合は高額という点が上げられる。補助金の額は，処理機の自己負担額の2分の1で，限度額については15,000円。補助の対象とする基数については，コンポストが1世帯につき2基，その他のものは1基。コンポストは増加傾向，加熱式は減少傾向にある。
	また，補助は継続予定か，補助対象の増減はあるのか。	それも含めて検討中である。
占部委員	資源回収団体に補助金が出るのはわかるが，業者は自分たちの利益のためにやっているのに，なぜ補助金を出すのか。	業者に対する補助を行うことで促進するという意味もあるが，今年度は廃止している。業者に依頼して資源回収を行っている団体もあるため，制度を設けている。補助制度を設けるか否かは，状況に

		応じて判断している。
三吉委員	生ごみ処理機は、福山市内においてどのくらい普及しているのか。	補助が始まってから、約2万基程度普及している。
藤井副会長	総排出量の減少に関して事業系ごみが大きく寄与していると説明があったが、図によると家庭系ごみの減少が大きな要因ではないのか。	家庭系ごみも減少したが、事業系ごみは昨年度の不況の影響もあり、大きく減少したと考える。一般廃棄物処理基本計画において、目標年度2015年度時点で、一人あたり950gという目標設定をしているが、2008年度は923gである。
	家庭系ごみがこの3年かなり減少しているが、この減少に大きく寄与しているのはどこか、また市の施策としては、どれなのか。	経済的な問題もあるかもしれないが、エコでえ〜ことキャンペーン、マイバッグ運動といった啓発活動が功を奏していると考えます。
福井会長	汚れたプラスチックが可燃ごみの中に混入しているが、片方をキレイにするために RDF にプラスチックが混ざるとするのは RDF の発電という立場から問題はないのか。	「混ぜればごみ、分ければ資源」とか言われているが、資源をリサイクルするためには純度の高いものが必要で、汚れたものが混入していると、きれいなプラスチックまで駄目になってしまう。そこで、汚れたものは、RDF か焼却の方にまわしていただくようお願いしている。仮に RDF にまわっても、サーマルリサイクル（熱回収）している。
古川委員	例えばマヨネーズでは、ゆすいできれいになると水を汚すことになるが、どちらがより CO2 削減に影響を及ぼすのか。	非常に難しい問題だが、一度軽くすすいで出してください、とお願いしている。下水道整備されている所については、問題ないかと思う。負荷量については、詳しく計算してみないとわからないが、様々な状況等も勘案して下水道整備を前提に、各自の判断に任せている。
藤井副会長	ごみ排出量はトータルで減少しているが、埋立量も減少しているのか。	町内清掃土を除いて年間20,000t程、そのくらいの量をめざしている。年々減少しているが、現在は20,000tを目標にしている。
	埋立余力はどれくらいあるのか。	箕沖の埋立地の場合、全体量では21%程度残っている。40万立方メートル程度なので、かなりの残余年数があると考えている。

古川委員	ごみの減量の補助金に関して、この年度の団体数の推移、増減があるが、どのように啓発しているのか。	環境啓発課、制度、パンフレット、インターネット等で啓発している。市の方で協働のまちづくりに取り組んでいることもあり、連携して資源を回収していきたい。
------	---	--

議題（２）2009度（平成21度）「福山発」の重点政策について

発言者	質 疑	回 答
開原委員	<p>県の方がレジ袋に特定して有料化することについて、福山市が県と対立しているかのような報道があったが、経過を含め考え方を丁寧に説明してもらいたい。</p> <p>県が有料化すると、事業者に対して各市町がその地域にある事業者に対して有料化の協力を求めるという手法なのか、県が県条例で有料化すればそれですむのではないか。強制的な面もあるが、そのあたりのやり方について説明してもらいたい。</p>	<p>県が進めているマイバッグ運動の推進について、県下23市町のうち、福山市と三次市が実施できないと県に報告している。その理由は、本市はレジ袋削減のため市民・事業者・行政の協働の下、エコでえ〜ことキャンペーンを実施しており、市長が申しましておるように市民や事業者への啓発活動の徹底、環境意識の醸成が大切だと考えているためである。</p> <p>県は事業者の方にもアンケートをしていると思うが、大手を対象にしている、中小企業については周知が徹底されていない。本市は市民・事業者の賛同を得ながらエコでえ〜ことキャンペーンを実施していることもあり、意見を聞かないとレジ袋無料配布の中止はどうかと思うので、検討していきたいと考えている。</p>
福井会長	実際にレジ袋が有料化した時と、エコでえ〜ことキャンペーンをやっていく時と、どれくらいの差が出るのかという点について試算しているか。	今回エコでえ〜ことキャンペーンが終わったら、事業者・市民の方にもアンケート調査をやってきます。有料化になると当初は効果はあるが、市民の環境意識の高揚がなければ長期的には下降をたどると考えている。



<p>藤井 副会長</p>	<p>「スクラムふくやま☆エコトライ」の施策の概よについて。CO2 の削減14,600 t, 関連事業との連携で10,000 t削減とあるが, 中心は車と考えられる。まわローズも利用率が低い, 公共交通機関と地方工業都市の構造, 構想との関連等を勘案し, 目標達成は難しいのではないかと。</p>	<p>スクラムふくやま☆エコトライは部局をまたいだ取組で, ベスト運動は都市部局が担当している。確かに10,000 tは大きな削減量だが, 概ね15,000人以上のベスト運動参加で(現在7月末時点で14,700人), 月1回のエコ通勤を推進していくことで10,000 tの達成はできるのではないかと考えている。</p>
<p>客本委員</p>	<p>家庭・地域・学校における取組のところの, エコスクールと環境学習モデルタウン事業を詳しく説明してください。</p>	<p>エコスクールは, 小学校・中学校からの応募により15万円相当の補助金を出して, 各学校が環境に対してどのような取組ができるか申請書を提出して選定。昨年度は5校選定。</p> <p>環境学習モデルタウン事業とは, 県の補助事業で昨年度は5校であったが, 今年度は10校をめざす。環境問題について自分たちでやっていく, また, 学校整備・の観点から環境についての物品を購入していただければいいと考えている。</p>
<p>三吉委員</p>	<p>スクラムふくやま☆エコトライの取組で家庭関係568 tとあるが, 各戸で電気の節約に取り組めば, 削減効果はかなりの効果が見込めるのではないかと。市としてもこういった啓発活動等もしてもらいたい。</p>	<p>出前講座や施設見学会を通して, 電気・ガス・水道等の節約を啓発して, いかにかCO2 の削減できるか考えてもらっている。各戸で節約の取組をすれば, 絶大な効果があるので, 一層啓発活動に取り組んでいきたい。</p> <p>家庭・地域・学校での取組の568 tの内訳で家庭分は, ふくやまエコファミリーへ申請している家庭だけが対象です。また, ごみ分別ガイドブックにも温暖化特集を掲載しており, 家庭でできる地球温暖化防止に向けた取組という形で, 家庭での節電・アイドリングストップ等啓発しており, 全市的に取り組んでいただければ, かなりの削減に繋がります。</p>

福井会長	エコファミリーの世帯数だが、5,000世帯を予定しているが、その根拠と今現在の状況はどうか。	エコファミリー認定制度は昨年から始めたもので、5,000世帯というのは2年間で5,000世帯ということで、本年度は2,500世帯を目標としている。
	結構、応募はあるのか。	申請はまだ数百という単位だが、教育委員会の協力も得て小学校4、5年生にエコファミリーのチラシを配布するとともに、企業の方にも働きかけており、今後も啓発活動に努め、目標を達成したい。
	「スクラムふくやま☆エコトライ」とは、「ふれあい しあわせ あふれる躍動都市 ばらのまち福山」を実現するための重点政策だと思うが、関係がよくわからない。	本市におきましては、第4次総合計画というのがあり、個別の計画として環境基本計画がある。福山市総合計画を環境面から支えていくのが環境基本計画で、「スクラムふくやま☆エコトライ」は、個別の各年度の施策として挙げているものです。

議題（3）2009度（平成21度）主要施策の概要について

占部委員	ごみの集積場から資源になるものを別に回収されているが、分別がされていない中から回収するのは大変なので、広報などで啓発して分別が徹底されれば、より効果も上がるのではないか。	資源の回収については、第一に市民による回収を推進していく事を基本とし、それを補完するものとしてエコショップ協議会の拠点回収や市職員による回収を行っている。現在は一般廃棄物処理基本計画の中で燃やせるごみの日に可燃物と紙資源等を分けて分別するようにはなっていないので、現段階においては、こういったやり方で実施している。
客本委員	エコ体験ツアーは、具体的にいつ頃実施予定か、公募なのか、どのあたりをどういう風にツアーで回るか等教えてもらいたい。	容器包装プラスチックの再商品化モデル事業とリンクするもので、現在も施設見学会を実施しているが、体験学習みたいな充実した形にしてプラスチックごみの分別の徹底を図っていきたい。時期は2ヶ年あるので、来年度が中心になるかと思う。

	<p>エコでえ〜ことキャンペーンについて、2007年度から実施され、工夫もして啓発としては続けてもらいたい。この3年間でレジ袋削減の目標が達成されているのか。</p>	<p>2007年度（第1回目）は参加店舗665店舗で、応募件数は91,579件、レジ袋削減枚数は148万枚、ごみの減量は14.7 t、CO2削減量は70.7 tと試算している。2008年度（第2回目）は参加店舗686店舗で、応募件数は101,887件、2回目は10枚、20枚、30枚とコースが分かれていたために10枚換算すると、243,000件、レジ袋削減枚数は約341万枚、CO2削減量は162,6 t。第二回目の期間は5ヶ月。本年度は6月5日～9月4日まで、実施中です。</p>
	<p>このキャンペーンが終わった後のマイバッグの利用率をもし把握されているのなら教えてください。</p>	<p>昨年アンケート調査によるとキャンペーンが終わるとマイバッグ持参率は減少傾向にある。</p>
岡田委員	<p>優良ごみステーションについて住民はよく知らない。自治会長さんを通して具体的な指針等配られるか、回覧してもらいたい。</p>	<p>周知が足らなかったと痛感している。広く周知して、たくさんの方に知っていただきたいと考えている。</p>
	<p>エコファミリー認定制度やエコでえ〜ことキャンペーンだが、市が業者と連携して例えば、白熱球を蛍光電球に変えると2割安くしてくれるとかという施策等はどうか。</p>	<p>去年は認定証と冷蔵庫に貼るようなくわいちゃんマグネットを参加者全員に配布するとともに、抽選でエコワット（簡易電力計量器）を配布しました。予算の限りがあるが、白熱球に関しては一掃大作戦を行っている他都市もあるので、一つの施策として検討していきたい。</p>
占部委員	<p>ペットボトルのフィルム等をはがすのに苦労されている方がいる。そこで、製造業者にわかりやすいように表示してもらう等、働きかけをされたらどうか。</p>	<p>最近ではミシン目を入っていたり、剥がし方を詳しく表示されているもの等あるが、お願いしていきたい。</p>
	<p>不法投棄について、最近、無料で電気製品等を回収している業者がいるが、適切に処理されているのか心配だが、どう考えているか。</p>	<p>法的に規制する方法はないが、どのように処理されているか監視・調査している。</p>

尾方委員	不法投棄について、不法投棄の量の推移と、カメラ設置費など不法投棄の処理費用はどうなっているのか。	量的には減少しているが、横ばい状態。カメラを設置した場所においては不法投棄はなくなっている。 費用は年間約270万円。
	エコでえ〜ことキャンペーンの期間中の削減される量とその他の月の平均の比較があれば、教えてもらいたい。	8月14日現在で環境啓発課に25,500件の応募がある。
	エコでえ〜ことキャンペーンの、昨年の実績でいうレジ袋の削減減量に関して、例えばキャンペーンの期間の月平均の削減量とその他の月の平均の削減量はどのような数値になっているのか。	レジ袋が月々どのくらい減っているかは把握していない。応募件数でしか把握・計算はしていない。
	昨年度の実績値で削減量が162.6tとあるが、これはキャンペーンに参加された数によって試算した量ということか。	キャンペーン前に事業者配布しているシールの枚数を把握しており、キャンペーン後に回収した枚数の差で、発行枚数を計算している。162.6tも、そういう手法により、算出している。
占部委員	まちづくり推進委委員会に各自治会が参加されていると思うが、出前講座等もっと積極的にまちづくりのほうを通じて啓発活動していただきたい。	環境啓発課は、出前講座や啓発活動を担当しているので、出前講座の要請等あれば伺っているので、こういう事も併せて周知していきたいと思っている。
鶴崎委員	スクラムふくやま☆エコトライに関して、温暖化問題とごみの減量は非常に関係深いと思うが、触れられていないのが気になる。	ごみの減量は、行政の取組の中のISOの推進として位置付けている。また、福山市は地球温暖化防止実行計画で、市の事務事業から排出されるCO2の削減とごみの減量に取り組んでいる。
	紙ごみの回収に関して、回収量だけではなく、実際どれくらいの割合でリサイクルされた等明示したら、回収率も上がってくるのではないか。	例えば、紙をこれだけ回収すれば直径10cm、長さ8mで何本に該当したか、何本節約したか等表示すれば、わかり易いと思うので、今後検討する必要はあると考える。